ふれあい西本郷小　令和４年度
１月号

横浜市立西本郷小学校　学校だより　令和5年1月10日（火）
一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本郷小の子
キャッチフレーズ：あいさついっぱい　みんながえがお　西本小

心を磨く

校 長　活田 宏輔

新しい年になりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年末サッカーワールドカップでの日本チームの活躍に、日本中が沸いたことは記憶に新しいと思います。サッカー強豪国を打ち破る快挙と同時に、日本人サポーターの試合会場でのある行動が世界から称賛されました。そうです、清掃活動です。日本人サポーターは、ジャパンブルーのごみ袋を持って、試合後の会場をきれいにして帰りました。日本代表チームは、使用したロッカールームを整理して、現地スタッフへのお礼に折り鶴を置いて帰りました。その行動を知った他国のサポーターが、試合会場でごみを拾うなど、ごみ拾いの行動は広がり、ついには他国のサッカーリーグ会場でもサポーターによるごみ拾いが行われたと報道で知りました。そんなニュースを見るたびに日本人の行動に誇らしい気持ちになりましたが、一方で当たり前のことをしてこんなにも称賛されるのかと、戸惑いの感情も湧いてきました。

6年生の歴史の授業では、江戸時代の人々の暮らしを学習します。当時、人口100万人を超える大都市であった江戸は、ごみ一つ落ちていない清潔な町でした。狭い土地に大勢で暮らす生活の知恵を私たちは現代に引き継いでいます。互いに気持ちよく、健康に暮らせるように、日本人は家や町を清潔に保ちました。

学校でも毎日掃除をしています。床を掃き、雑巾で拭いています。このような掃除の仕方は、古来仏道で修行として行われてきました。掃除を通して心の垢を落とす、「心を磨いている」のです。

6年生が総合的な学習の時間に町のごみについて話し合いました。「いつも遊んでいる公園にごみが落ちている」「町の人に知らせてごみ拾いを呼びかけよう」と実際に公園に行きごみを調べると、お菓子やジュースのごみ類が多いことがわかりました。「利用している自分たちの出したごみかもしれない」「町の人ではなく西本郷小のみんなにごみ拾いを呼びかけよう」と学習が進み、全校に向けて「公園のごみ問題」について写真や動画を使いながら発信しました。

子どもたちは日々の清掃や学習で心を磨いています。W杯のニュースでの戸惑いの感情は、こんなことから生まれたのかもしれません。掃除が上手な子どもたち…きっと自宅でも力を発揮してくれることでしょう。